森六、海外開拓に本腰

バイオスティミュラント

気候に合わせ最適提案 自社開発品も投入

森六はバイオスティミュラント（生物刺激剤、BS）事業で海外展開を視野に入れる。インドネシアで開催された農業関連展示会では、自社開発中のBS資材を初めて参考出品した。商社ネットワークと研究開発力を融合させた独自の提案力により、世界各国の気候や作物特性に合わせた最適な農業ソリューションの提供に力を注ぐ。サプライヤー製品の展開に加えてオリジナル資材を創出し、成分や機序が異なる資材の最適な組み合わせを検討しながら提案の幅を広げる。



インドネシアで開催された展示会「ALL Agri Expo2026」



コロイダルキチン開発品

BSは、肥料や農薬とは異なるアプローチで植物が本来持つ生理機能やストレス耐性を引き出す新しい農業資材。森六は外部からの仕入れ販売と並行して、グループ内で独自に研究・開発に取り組んでいる。カニ殻を活用した植物の防御機能に働きかけるキチン資材や、植物のエネルギー代謝・呼吸をサポートする天然由来の希少脂肪酸を主成分とした独自資材などの研究を進めており、商社の枠を越えたものづくりを実践している。

すでにグループ会社の森六アグリを経由したサプライヤー製BSの展開で実績を積み重ねており、今後は自社開発品の展開も進めていく。成分や作用機序が異なる複数の資材を組み合わせ、状況に応じた最適な投与を行うことで、他社にはない高い付加価値を目指す。

BS事業の海外市場開拓も本格化している。注力エリアの一つが北アフリカのモロッコだ。同国ではヨーロッパ向けを中心に高品質な果物や作物の栽培が盛んであり、現地農家へのアプローチを進めている。また、エジプトやケニアで大使館やジェトロ（日本貿易振興機構）のネットワークを活用した連携が動き出しており、現地の肥料メーカーと連携した現地展開を視野に入れる。

新たな市場として期待されているのがインドネシアだ。現地で開催された農業資材展示会では、開発中のカニ殻を活用したBS資材と天然由来の希少脂肪酸を用いたBS資材を初めて参考出品した。今後、現地でのニーズや用途を探りながら事業展開を目指す。リゾート需要や海外輸出を見据えたアドウ・ワイン生産で森六のBSが収量や品質向上にいかに貢献できるか、現地での評価に注目が集まっている。

今後は、カニ殻にとどまらず新たな素材研究をはじめ、環境に配慮した循環型の取り組みも視野に入れつつある。

気候変動にともなう農業の持続可能性への関心が高まるなか、同社では商社機能と高度な研究開発力を強みに、世界各国の気候や作物特性に合わせた提案力を発揮していく。

掲載内容（画像・文章等）の一部及び全てについて、無断で複製、転載、転用、改変等を禁じます。